

函館のまちづくりを考える はこまち通信

Vol.

40

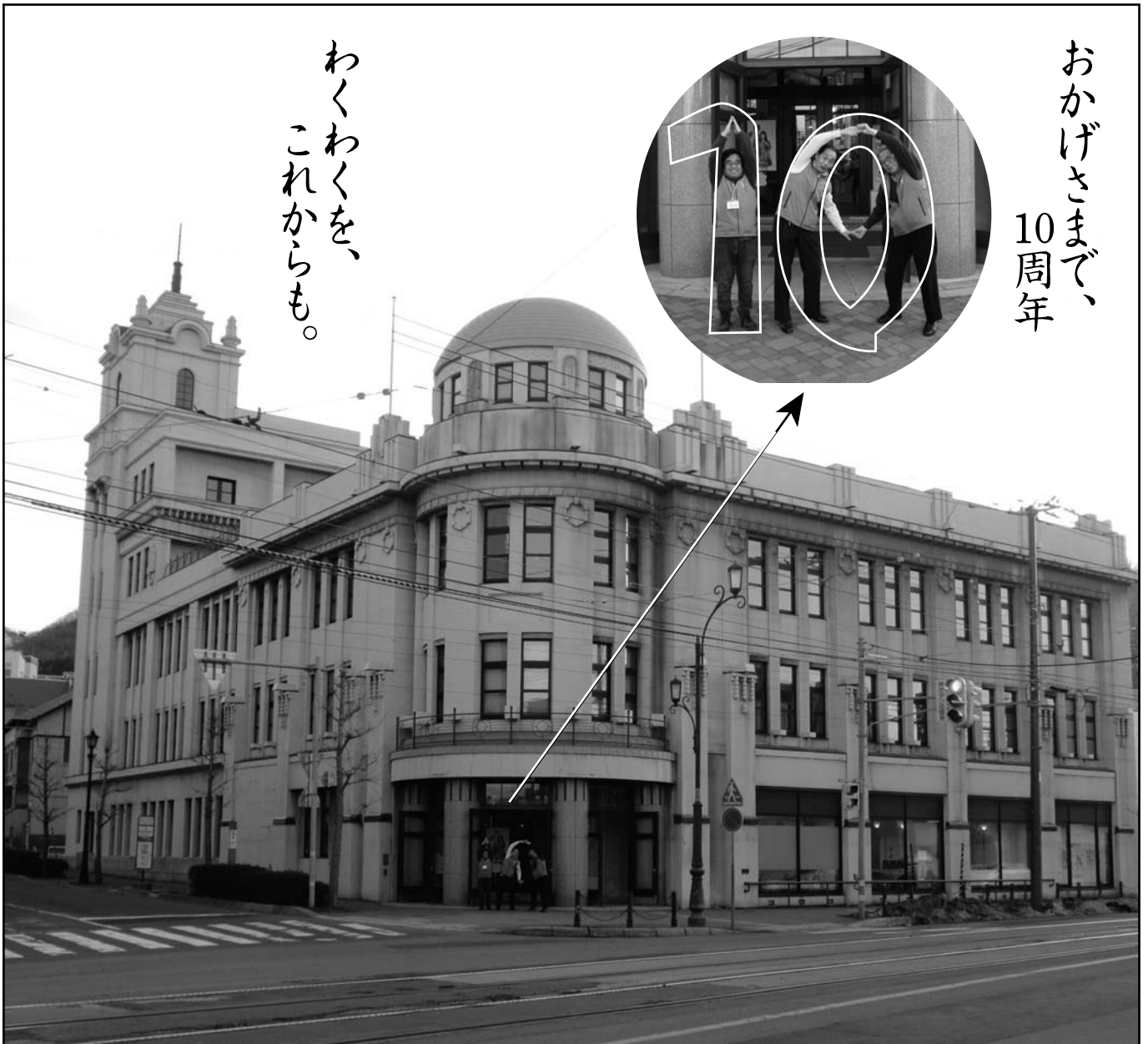
2017年4月

発行／函館市地域交流まちづくりセンター

わくわくを、
これからも。



おかげさまで、
10周年



はこまち対談 P2～3

「Code for Hakodateの中村さん」に
ITを通じたまちづくりについて聞きました

今号の市民活動団体

① はこだて検定合格者の会

特集 P10～11

ひきこもり体験者のつどい「樹陽のたより」
函館生まれのガイドブックで函館のまちを再発見

② 五稜郭の文化価値を考える会



Takuya Nakamura

Kiso Marufuji

Code for Hakodate (コード・フォー・ハコダテ)
コアメンバー

函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

中村拓也 丸藤 競

特集

はこまち対談

「余白」の魅力と「コミュニケーション・コスト」



中村拓也 [プロフィール]

1986年函館生まれ。立教大学観光学部卒。映画用ビデオカメラの説明員、デジタル機器メーカーの営業、アンテナショップ・コミュニティカフェ・商店会の事務局の運営会社、NPOでのイベント事務局業務など、10年間の首都圏生活を経て2016年函館に戻る。現在は映像関係の仕事を行う一方、ITで地域課題の改善を試みる「Code for Hakodate」の活動も行っている。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター長 丸藤 競

今回は、学生さんなどと一緒にITを通したまちづくりを行っている、中村拓也さんにお聞きしました。

対談

丸藤 函館に「お帰りなさい」ですね。
中村 やつと戻って来れました。就職活動の際に函館で観光・地域・IT・メディア関係の分野で仕事がないかと探していたんですが、見つけれなくて。それならとまずは首都圏で働き始めました。
大学で学んできたこと

丸藤 観光学を学んだと聞いてます。
中村 大学受験の時点で、住んで働くなら函館だと思っていたので、それまでは一度外に出ようと(笑)。それなら盛り上がりつつある観光の分野だろうということが入学しました。その頃には「観光まちづくり」に興味を持っていたのですが、3年生になるまでその分野の講義が始まらず、それまでは映像とか福祉とか、別の学部にもよく顔を出してました。

丸藤 その講義ではどのようなことを？
中村 ざっくり言うと、「地域の課題の解決はそのプロがたくさんいるので、問題や課題を見つけてみましょう」というもので、各地の解決事例を見つつ、自分たちで課題点を更に考えていくという内容でした。でも考えてみると、函館の場合は観光の分野以外についても日常会話やSNSやブログ、あとまちづくり系のイベントなどから毎日のように課題が挙がっているの、むしろそういう情報をまとめて、解決する人がもつと必要ですね(笑)。

丸藤 ITで地域を良くするという活動をしていますね

中村 Code for Hakodate (コード・フォー・ハコダテ)ですね。代表は、ここで未来大の永井がやっています。ITの分野で地域を良くできそうな案があれば、随時仲間集めとチーム作りをしつつ、定期的に集まって活動しています。イベントやミーティングなど定期的に集まる場を作ったりする運営メンバーと、それとは別に各自持ち寄った案を実行する各チームがそれぞれ活動しているんですがチームについては学生だけでなく僕のような社会人も参加しています。アプリを作るチームもありますし、「Wikimedia」というインターネット上の百科事典を編集するイベントを行ったり、アプリの使い方講座だったり、比較的IT初心者向けのものをやるチームもあります。

丸藤 ITを切り口にすることで可能になることもあるのでしょうか？

中村 例えば、函館の歴史に詳しい方が Wikipedia で記事を書けば全世界の人に見てもらえたりもしますし、地域とインターネットをうまく組み合わせると、新たなつながりができるかと思えます。

「函館に戻った経緯」

丸藤 大学卒業後しばらくは横浜などに居ましたよね。そこから函館に戻ろうと思ったのはなぜですか？

Code for Hakodate

中村 横浜に居た頃、企画というか、色んなやりたいことを思いつくんですけど、それが全部函館ネタなんです。何か思いつくと「Evernote」というアプリにメモをしてるんですけど、数えてみたら当時で400件くらい(笑)。それと色んな偶然が重なったのもこのタイミングで、戻る時期なのかなと。

丸藤 やりたいことがたくさんですね。色んなことをやっている人がたくさんいると、まちは面白くなりますからね。たくさんいると思いますよ。能力のある人も。

中村 そういった人たちとやりたいことがたくさんあって。1つ何かをやると、3つくらいやりたいことが増えるんです(笑)。楽しいですよ。

丸藤 函館に戻ってきたのは？

中村 2016年の3月です。北海道新幹線開通直前(笑)。

丸藤 運命だと？

中村 偶然横浜で「アイデアソン」「ハッカソン」という、1〜2日カンヅメをしてアイデアを出したりとかアプリを作っちゃおうというイベントに参加したらそれが楽しくって。話を聞いてみたら、誰でもどこでもやつても良いということだったので、函館でもやろうと考えていたんです。そのタイミングで、はこだて未来大や教育大函館校の学生と一緒にそれを開催したり、僕らより先にCode for Hakodateという名称で活動していた函館の中学生と一緒になったり、タイミングよく函館の会社で働いたりなど、色々ありました(笑)。

丸藤 函館が中村さんが必要としたんですね。

中村 仲間がいたからこそだと思います。高校の時はそうでもなかったんですが、むしろ函館を出てからの方が函館市内のいろんな所に行ったり話ができるようになって。当時函館どづくにあった門型のレーンの記録映像を作ったり、そうやってつなが

りができたので、細々とでも続けてきてムダじゃなかったんだなあと思いました。あ、丸藤さんも勝手に仲間だと思ってます(笑)。

函館の観光

丸藤 函館の観光についてはどう思いますか？

中村 団体客が楽しめるベタなスポットも、個人客が楽しめるディープなスポットも豊富ですよ。そんなこんなで観光資源が多すぎて、友人が来た時にはどこに連れていくかチョイスに困ります(笑)。

丸藤 課題は？

中村 携帯電話の充電ができる場所が少ないとか、外貨両替をできる場所がないとか；具体的にはたくさんあります。ただ、これは逆にチャンスだな。課題を一つつ実現していければ視察の人たちが来てくれて、更に地域にお金が落ちますよね。そういう人たち向けの報告書とかコンセプトブックなんかの資料を作って売つても良いでしょうし。

失敗体験と伴走してくれる人

中村 あと、色々学生時代やりたいことを各所に相談したりしたんですが、なかなか理解してもらえなかったり、やめたほうがいいとか言われたりするのはありましたね。結局諦めようとしても諦められなかったんですね。

丸藤 やらない理由探しですね。それは観光以外でも見られます。

中村 「これは以前失敗したからやらない方がいい」、「この人はこうだから話しても無駄なんだ」という言葉を時折耳にしますけど、それである種のトラウマになっているからかなと。でも、状況も人も時と共に変わりますので、『しくじり先生』のように過去の失敗を笑いながら振り返る

機会はぜひほしいですね。

コミュニケーション・コスト

中村 それと他の地方都市にも言えることですが、函館は「コミュニケーション・コスト」が高いということに最近気付きました。日常生活でひと二人と何気ないコミュニケーションをすること自体が大変なんですよ、個人間でも団体間でも。すれ違ひざまに「明日こんなイベントがあるよ」とか何気ない話が、車に乗っているとできないですよ(笑)。

丸藤 車での移動だけでは、まちの変化や詳しい様子も見逃してしまいますよね。

中村 それで結構自分が気づかないところで勘違いが生まれて仲が悪くなったりとか。普段すれ違ひざまに話してたらすぐ間違いに気づくようなことでも、ホントに課題です、これは。

函館のまちづくりと地域の担い手

丸藤 まちづくりに関しては？

中村 函館には色々な分野で一流の人が移住も含めて多くいるはずなんですけど、あまりそういった「人」の価値に気付いてないのかなと。そういう人たちの提案がその場でバツサリ切られて、結局その提案は他の地域で実行される、という話を聞いて、もったいないなと。自分が分からなければ、分かりそうな人につないでほしかったと思いますね。「コミュニケーション」って陳腐化している言葉だと思いがちですが、本当に大事な言葉だと思いがちです。

丸藤 コミュニケーションが増えると、幸福度最下位から抜け出せるかもしれないですね。

中村 色々な声が形になる可能性を秘めています。函館をもっと楽しく過ごせるようになるかもしれません。

学生さんにアドバイス

丸藤 学生さんと一緒に活動する場が多いと思いますがアドバイスを。

中村 もしTwitterやFacebookを使っているなら、興味のある話をして人をひたすらフォローしてみてください。まずは200人くらい。楽しい世界が一気に広がりますよ。それと、将来函館に住みたいという思いがあったら、逆に一度外に住んでみることをオススメします。函館に住みながら旅行でも良いです。函館の良さとか課題とか、相対的に自分のまちを捉えられるというのはとても大事です。函館に戻りやすい環境を作るのは僕らが必死でやることで(笑)。

移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。



終わりのそとで終わらない初めての函館の冬、身にしみてわかったことは凍った路面を歩く際の転倒の危険性と、屋根に積もった氷の塊が頭上から降ってくる恐怖と、この谷地頭という町は正月以外の夜はキツネ以外ほとんど誰も歩いていないということだ。



旅する雑貨屋
シャンティタウン

鹿児島県から引っ越してきました「旅する雑貨屋(Shantytown)」のシメダグンジです。去年の夏、鹿児島と宮崎の県境にあつて焼酎の名前にもなっている霧島という山から、老犬と一緒に高速道路をのんびり走って一日間、青森からフェリーに乗って三日目の朝に函館山の麓に到着しました。

シャンティタウンは、旅先で買い付けた雑貨や服を日本に持ち帰り、イベントやネットショップで買いつけた先の旅情報発信しながら販売するというスタイルでスタートした、ただただ旅がしたくて始めたお店です。ネットショップを長く運営している経験から、知り合いにサイト制作の依頼を受け時々お仕事させてもらうようになり、ありがたいことに函館に来てからもすぐに地域商店街のホームページのお仕事をいただきました。

世界屈指の観光地、函館にせつかく住んでいるので、今後は a i r b n b などの民泊やゲストハウスなどの、「宿」に挑戦してみたいと思っています。そのときのゲストや私のような移住者のための「ハコダテジン」という観光情報サイトを最近作り始めましたので是非検索してみてください。
<http://hakodatezine.com/>

鹿児島に住んでいる頃は、天気予報の北海道の気温や豪雪のニュースをほとんど海外のそれと変わらない目で眺めていましたが、まさか自分が北海道で冬を過ごす日がやってくるとは夢にも思っていませんでした。実際にやってきてみても、私にとって函館という街はやはり海外にいる感覚に近く、同じ日本語を話していても外国人と話している様な気持ちになることが多々あります。

住んでいながらも旅人と触れ合う機会が多く、常に旅人の気持ちを思

い出すことができる特別な場所です。

霧島は温泉が有名な場所です。函館に来る前はしょっちゅう色々なお湯に浸かっていたのですが、函館に来てからというものは歩いて行ける場所にある谷地頭温泉の五稜郭の形をした露天風呂「折の田々」です。早朝の谷地頭温泉の茶色くてしょっぱいお湯は腰痛持ちの私の心のオアシスです。来てすぐの頃は風呂上がりに住吉港を通過して海岸線沿いをカモメを見ながら散歩するのが好きでしたが、最近ではすぐ上空で羽の音をバサバサと響かせて函館山に帰っていくカラスの大群の迫力に圧倒されて以来、夕暮れ時には外に出て煙草を吸いながら空を眺めるのが日課になってしまいました。

少しずつ日が長くなり、長い冬が明けかけていくかと思えばまた雪が降り、雪が嬉しくてわざわざ散歩に出かけることも少なくなってきた、春はまだかと思わないでもない今日この頃。春の装い、お買い物はシャンティタウン。 <http://shantytown.net/>



雑誌スペクテイターvol.38
「赤塚不二夫 特集号」



旅人にオススメのウーファー搭載
ポータブルスピーカーBeYo

旅する雑貨屋 シャンティタウン 新店舗のお知らせ

市電通り沿いで人通りも多そうな場所に良いタイミングで巡り合っしまい、大門商店街の二画でお店を出すことにしました。元々香水屋さんで、昔は額縁屋さんだった場所だということです。

夏までのオープンを目指してがんばりますので、函館駅周辺にお越しの際はどうぞよろしくお願ひします。

住所 函館市松風町5-11

移住を考えている方へ

函館市地域交流

まちづくりセンター

移住サポートセンター

電話 0138-2219700

開設時間 9時~21時

開設日 無休(休館日を除く)



この先どうなる 北海道のローカル線

留萌本線、留萌・増毛間廃止

少し古い話で恐縮ですが、増毛へ行ってきました。留萌本線・留萌―増毛間の最後を見届けるためです。

最終運行日は2016年12月4日でしたが、私は11月29日の夜行バスで札幌へ行き、30日の札幌発一番列車で深川を経由して留萌、増毛へ。増毛で1泊し、函館へ戻りました。

鉄道の旅の王国だった北海道

私と北海道の接点は学生時代の鉄道の旅でした。40年も前になりますが、北海道の海岸線のほぼすべてに民営化前の国鉄が走り、内陸部も今よりずっと多くの町を鐵路が結んでいました。飛行機は高嶺の花だった当時、北海道入りは青函連絡船が当たり前でした。函館は「ここを通らなければ北海道のどこにも行けない」という関所のような町でした。

当時、関西の学生の間では、北海道までの往復に、道内の国鉄と国鉄バスの乗り放題が付いて、値段は往復の運賃程度という「北海道ワイド周遊券」を買って、有効期間の20日間、目杯、北海道を回るといふ旅がブームになっていました。

私もそのお得意チケットで北海道を満喫しました。今も「函館を振り出しに鐵路がつながる北海道」という楽しい記憶がこびりついています。それだけに今の道内の鉄道路線図を見ると淋しくなりますし、函館在住で直接関係ないとはいえ、留萌―増毛の廃線を知り、居ても立ってもいられなくなったというわけです。

意外だった現地の様子

増毛の宿を予約したのは前日でした。鉄道ファンでどこも満室だろうと思っていたのに、最初に電話した宿がすんなり取れました。肝心の鉄道はさすがに混んでいました。留萌発増毛行き列車は、増結車両のデッキにまで人が溢れていました。

午後0時47分に増毛着。駅構内は列車から吐き出された人々が撮影に興じ、高倉健主演の映画「駅」のロケに使われた駅前風待食堂も押すな押すなの人ばかりでした。

ところが午後3時41分発の留萌方面行き列車が出ていくと、駅周辺から人の姿はほとんど消えてしまいました。宿が楽に取れたはずですが、宿に着き、おかみさんに廃線について尋ねたところ、「ほとんど車だし、通学もバスの方が学校の近くまで行ってくれるので便利です。乗客といえばお年寄りくらい。各列車に、ほんの数名じゃないですか」という答えが返ってきました。

夜、飲み屋のカウンターで居合わせた60歳前後の地元の人も、「乗り継いで札幌やどこか遠くまで行くときはJRの方が便利だけれど、普段はバスか車」と言っていました。さすがに商工会の職員さんは、「今まであったものがなくなる。その精神的な空白感、計り知れない」と言っていましたし、増毛の酒蔵・国稀酒造の近くですと食堂を営んでいる初老の婦人は、「それはもう淋しくなる」とのことでした。

鉄道が消えて本当によいのか

しかし結局のところ、廃線を惜しんでいるのは、公的な職業にある人やお年寄り、そして私のような旅行者だけということなのでしょう。いや、もし北海道の鉄道も首都圏

のように便利なら、廃線は見越せてないはず。利用者が減り、本数が減る中で、「仕方がない」と思わざるを得ない状況に追い込まれただけかもしれない。そんな中、最後に頼りになるのは車。でも今、お年寄りによる交通事故が急増しています。

今の世の中、すべてが採算第二で、旧国鉄にしても何にしても「官がダメなら民へ」という方向に進んできました。でも民がダメなら、この先どうなるのでしょうか。



ラストランの見学者で混雑した増毛駅

★プロフィール★

おおにし つよし
大西 剛さん

1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。「市電でめぐる函館100選」など函館本の出版に取り組む。宮沢賢治生誕120年にあたる2016年には、函館在住の版画家・佐藤国男氏と函館・道南のナレーターによる賢治童話のミニ絵本付き朗読CDシリーズを発行。

NPO・市民活動団体紹介のページ

はこだて検定合格者の会

■どんな団体？

「はこだて検定合格者の会」は、箱館歴史散歩の会の中尾仁彦氏の呼びかけで平成26年に誕生しました。

平成25年の第8回「函館歴史文化観光検定（はこだて検定）」で受験者（初級・上級合計）が223名と減少し、「はこだて検定」存続の危機感から、上級合格者が集まり、「はこだて検定」の認知度を高め、「はこだて検定」の受験者増加に向けた活動をスタートしました。

3年間、「函館山七福神巡り」などの街巡りや、講演会などの活動で「マスコミ」に掲載される（平成28年度は29回）ことにより「はこだて検定」の認知度を高めるとともに、受験相談会などで受験者増と、受験者支援を行ってきました。

この活動もあり、昨年の第11回は「はこだて検定」では受験者（同上）が366名と、第8回の1.64倍に増加しています。



運営委員会でのイベントの打ち合わせ

■団体のPR

昨年末では、会則も役員もない各自の自発的な組織でした。今年1月総会を開き、会則・役員も決め、より社会に貢献できる組織を目指しています。

今までも行ってきた、講演会、街巡り、受験相談会の活動はこれからも行っていく予定です。それとともに、受験者の学習支援の活動を今年から強化していきます。その一つが「受験講座」です。「はこだて検定」のテキストの7章ごとに、模擬問題とその解説の中で理解を深めていきます。「はこだて検定合格者の会」による徹底した過去問題の分析から模擬問題を作っていることで、実践的に学習できます。

どんな問題が出るか不安、なかなか受験への一歩を踏み出せないという方はぜひこの「受験講座」（8月開校予定）を受けて、「はこだて検定」にチャレンジしてください。「はこだて検定合格者の会」は、あなたの努力を支援します。

「はこだて検定」受験者の背中一押し「合格者の会」

■会員募集など

会員の条件として、はこだて検定の上級合格者限定です。受験者の支援など、一定レベルが求められるためです。

過去に78名の上級合格者がいるのですが、商工会議所が個人情報保護の立場から、個人名を明らかにしていません。

「私は上級合格者」、「私の知り合いに上級合格者がいる」という方は、ぜひ情報をお寄せください。

○正会員は月1回程度の活動に参加いただける方で年会費2,000円

○賛助会員は会の趣旨に賛同いただける方で年会費1,000円。

■これからの活動

当面のイベントとしては、

●「函館山七福神巡り」

4月16日（日）午後1時 蔵島神社集合

●「函館の重要文化財巡り」

5月21日（日）午前10時 谷地頭電停集合

●「啄木来函100周年ゆかりの地巡り」

6月11日（日）

集合時間・場所
未定

※各イベントとも参加費100円



「函館山七福神巡り」（住三吉神社）

はこだて検定合格者の会

■代表者名／会長 山本 和雄 ■事務局名／宇都宮 哲朗 ■会員数／正会員8名、賛助会員4名
 ■電話／0138-73-6871 ■メール kazuoyamamoto5@yahoo.co.jp
 ■フェイスブック <https://www.facebook.com/hakodatekenteigoukaku/>

NPO・市民活動団体紹介のページ

五稜郭の文化価値を考える会

■どんな団体？

「五稜郭の文化価値を考える会」は、2014年9月に立ち上がったばかりの会です。2009年に国内の「暫定リスト」入りをし、現在推薦候補入りを目指して動きを活発化させている「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が実現したら、次は「五稜郭を世界遺産に！」という意気込みで活動をしています。そのために、五稜郭の広義の文化価値を多くの市民の皆さんに知っていただきたいという目的で情報発信に努めています。

■団体のPR

主な活動は、年2回の講演会と5回の連続講座の開催です。講演は五稜郭の歴史や箱館奉行所に関わった人物、開港時代の箱館の様子等を広く紹介する内容になっています。講座は五稜郭に関する原資料を読み解きながら文化価値を検証していきます。

昨年は会員の皆さんの要望に応え、五稜郭公園内の普段はあまり行かないような所を実際に歩き、資料をもとに稜堡や土塁等の築造跡を確認する楽しいミニ講

座も実施いたしました。

また、会報「五稜郭の三世」を発行し、講演会や講座の内容について発信しています。

■会員募集

年会費は個人会員101,000円、団体会員105,000円です。

五稜郭に関心のある方、函館の歴史に興味のある方、是非 五稜郭を世界遺産にしたいと思っ方、どうぞ事務局にご連絡をお願いいたします。いつでも大歓迎です。

縄文遺跡群の次は、五稜郭を世界遺産に！



松村隆さんを講師に講演会を開催

■これからの活動

4月29日(土) 13:00～ 中央図書館視聴覚ホールで平成29年度総会と第7回講演会を開催します。講師は大野文保研の会長である木下寿実夫氏で、大野と箱館の関係をお話していただきます。

第8回講演会は、6月16日(金) 18:00～ 中央図書館視聴覚ホール

講師は、郷土史研究者として、ご活躍の井上能孝氏です。武田斐三郎生誕一九〇年を記念して、五稜郭築造に込めた武田斐三郎の思いをお話していただきます。

今年も連続講座を5回予定しています。会報や新聞等でも開催案内をしますので、どうぞご興味のある方はご参加下さい。



連続講座の様子 五稜郭公園にて

五稜郭の文化価値を考える会

■代表者名／佐々木 馨 ■事務局名／五島軒 ■会員数／100名
 ■電話／0138-23-1106 FAX／0138-22-8073
 ■メール 3z636i@ncv.jp

NPOワンポイントアドバイス!

～時間のムダをおさえる工夫～

誰にとっても、どんな組織にとっても、時間は大切です。

そこで今回は、大切な時間をムダなく最大限に活用できる組織風土のつくりかたについてお伝えします。

1. 判断をさらに踏み込む&早く

- ◆判断を先送りせず、「じっくり」ではなく「しっかり」検討しましょう。
- ◆「質問する・される」ことを歓迎しあうと活動や業務の精度が高まり、結果、時間のムダをなくすることができるようになります。

2. 指示・説明をさらにわかりやすく

- ◆指示や説明は、口頭だけでなく文字でも伝えるようにしましょう。忘れたり、思い違いをしていたりを防ぐとともに、確認も素早くできるようになります。
- ◆指示・説明は大きな字で書いて表示すると効果的です。ポイントは、「覚えやすいように」「具体的に」「初心者でも分かるように」です。
- ◆「何がゴールか」と同時に「ゴール一歩手前」の状態についても説明しておく、作業等がしやすくなります。

3. 確認をより詳細に

- ◆講座やイベントなどを行う場合は、下見やリハーサルを必ず行いましょう。
- ◆日頃から、集める情報の精度を高めておきましょう。
- ◆気付いたことは、必ず記録する習慣を根付かせましょう
- ◆振り返りと申し送りを徹底しましょう。

4. 片付けをより丁寧に

- ◆日常的に整理整頓ができていると、次の業務が素早くできるようになります。片付け後、全員で確認しておくことをお勧めします。
- ◆日常的に整備・メンテナンスを行うようにしましょう。不備や不具合は、気付いた時にすぐに直すようにしましょう。

参考:『NPOマネジメント 47号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

実はスタッフから「お土産マイスター」と言われています。昨年だけで数十回出張があったのですが、その度にお土産を買ってくるので、スタッフに(たぶん)喜ばれています。お土産と言えば、もちろん食べ物。全国各地の美味しいお菓子を求め、旅先で走り回ることも。同じ物を買ってこないようにしているので、札幌のように月に何度も行くことがある所は、これまでのお土産とダブらないようにするだけで大変です。

最近では“お土産品”として売っているものより、その土地の老舗の味の方が好評です。ここだけの話し、本来の用事よ

りも熱心の下調べをし、時間のやり繰りをして手に入れることもあります。老舗の名品には、その地域の味を活かし、とても実直につくられているものが多くあります。歴史や文化、人々の想いなどが伝わってくることもあり、とても贅沢で記憶に残る美味しさを楽しめます。

では、函館ではどんなお土産があるのでしょうか。駅や空港の売店に置いてあるのは北海道を代表するお菓子が多く、“函館といえば”という物はあまり見当たりません。

函館は、道内でも歴史のあるお店や老舗が多い街です。従って、“函館と言えば”の答えは、その老舗の味にあるのかもしれない。しかし、その魅力を肝心の市民が知らないままということも多いような気がします。地域の人々が愛し、誇りに思っていてこそその老舗。観光に頼ることが多い街の生きる道として、私達こそがもっと地元老舗の魅力を知る必要があるのではないのでしょうか。



▲刺し子ふきん



▲ミニいす

福祉の店
どんぐり
2号店

(まちづくりセンター1階)

3月も下旬になりますと卒業式等があり、その後の進路を決定する様々な選択が行われる時期となります。

南の地域では梅が終わり、桜が咲き始めてきますが、北海道はようやく春が来たことを感じさせられる季節となります。この時期は、1月の年の初めとは違った感覚で、新しい年度を迎える期待と緊張感を持つものです。

福祉の店「どんぐり2」も、作品を制作提供している加盟各障がい者施設において新たな製品に取り組み、その作品をお客様にご提供して参りたいと思います。

■営業時間 / 10:00~16:00

■定休日 / 土・日曜日・祝日

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

春ですね!お散歩が楽しい季節の到来です。
頭の中の「ご近所庭マップ」を引っ張り出して、大好きな花を眺めに行きましようか。(でも花より団子なので途中にお菓子屋さんがあるといついつい…)

◎マーマレード販売します

毎年3月は水侯の甘夏みかんを共同購入します。
水侯病患者さんの家族会が作る、ちょっと無骨な顔つきながらみずみずしい甘夏。かつて自分たちが苦しんだ経験から、化学物質には頼りたくないという農業や化学肥料を使わずに、手間を惜まず大切に育てているみかんです。
マーマレードの材料は甘夏みかんと砂糖とレモンを少し。
ヘタと種以外は皮も袋もすべて使います。10kg近い甘夏みかんを絞り、刻むのはなかなか大変な作業ですが、私にとって、味噌仕込みと並んで冬から春の恒例行事になっています。焦がさないようにコトコト煮詰めて、とろみがついたらできあがり!去年はよけておいた種をリカーに漬けて、初めて化粧水も作ってみました。肌がしっとりしますよ。

マーマレードはトーストに添えてご提供するほか、現定数になりますが販売もいたします。おうちで早春の味、いかがですか。売り上げを、東日本大震災被災地の子どものための保養に取り組む「ほんわか」さんに託します。

●タイムマシン・スイッチ《給ちゃん篇》

平日スタッフのすーちゃんと店主は同世代なので、話していてときどきタイムマシンのスイッチが入ります。この前は、好きだったキャンディの話でひとしきり盛り上がりしました。すーちゃんが好きだったのは「いちごみるく」と「ミルク」。赤い箱にベコちゃんの顔がっていましたね。私は「ソフトエクレア」と「純露」。ソフトエクレアのコーヒー味と、純露の紅茶味が好きでした。
ほかにもポップキャンディ、チェルシー、小梅など懐かしい名前が次々と…。池田バンビの「ビーナツロール」も大好きだったなあ…。幻の味になってしまったけれど。

cafe DripDrop★米田尚子



煎りたて珈琲と
地物野菜メインのお食事

cafe DripDrop

カフェドリップドロップ



販売用のマーマレード

■営業時間 / 10:00~18:00

■定休日 / 水曜日

ホームページ

<http://handpick.cafe.coccan.jp/>

まちセンからのお知らせ



移住者が立ち上げた出版社
新函館ライブラリがつくる函館本、
印刷版は、まちセン1階cafe DripDropで取扱中。
電子書籍版も出ています。

詳しくは、ホームページで
<http://www.nhakodate.com>



①新函館写真紀行
B6判112ページ
印刷版 1,234円
電子版 600円



②市電でめぐる函館
100選
B5判144ページ
印刷版 1,543円
電子版 800円



③来たくなったら自分で
探そう
A5判80ページ
印刷版 1,000円
電子版 600円

価格はいずれも税込みです
※キャプションの丸数字は、その写真が掲載されている本を示しています

★ 公会堂のほかにもハイカラがいっぱい ★



大手町ハウス②



函館海産商同業組合事務所①②



相馬株式会社②

いずれも内部は非公開。外観を楽しんでください

★ 私たち、どこにいるかわかりますか? ★



赤い靴の少女③



ハイカラさん③



月光仮面②

★ 眺めがいいのは函館山や裏夜景だけではありません ★



船見公園③



元町配水場②



ともえ大橋②

※ロープウェイのゴンドラは、出版時のもの。現在は新型です

市民活動団体からのご案内

ひきこもり体験者のつどい「樹陽のたより」

はじめまして。ひきこもり当事者会「樹陽のたより」（以下「樹陽」）の田中透です。現在33才になります。今日は「樹陽」のいつもの雰囲気などをお伝えしていけたらと思います。

「樹陽」の例会は毎月1回、第2日曜日に、五稜郭町の函館市総合保健センターで開かれています。

参加人数は当事者、支援者含めて、5人から10人くらいですね。少ない人数の時はじっくり話せますし、人数が多いときはいつもより活気があって楽しめたり、その時々状況の居心地が良いと感じています。

話題は近況報告が恒例で、そのあと今悩んでいることについて話したり、とりとめもない雑談をしたりしていますね。雑談と言っても、みんな元々ひきこもっていたメンバーですから、喋らないで聴いているだけでも大丈夫ですし、気軽に参加していただければと思います。

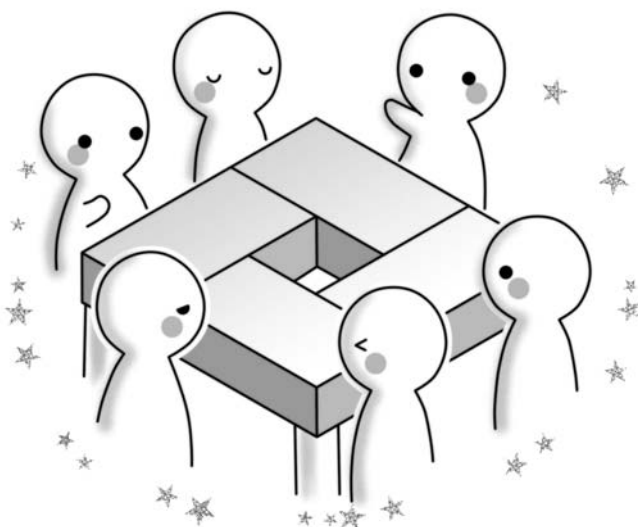
そして例会以外にも、年に何度かみんなでご飯を食べに行ったりもしています。引っ越したり、就職したりして函館から出たメンバーがいるのですが、そのメンバーが函館に帰省した際に集まるのです。

最近、メガドンキに入っているベビーフェイスでご飯を食べてから、蔦屋書店に向かうというのが定番になっています。

僕が樹陽に参加して7年たちましたが、当初と比べて僕自身も元気になれましたし、参加しているメンバーも元気になったと思います。僕は現在就職して仕事をすることができるようになりましたが、7年前は自分が働けるようになるか不安で、自信がありませんでしたから。

他のメンバーも、就職やアルバイトをしたり、ボランティア活動をしたり、活躍の場が広がっている人が多いです。かといって、無理に行動的になる必要もなく、マイペースで自分らしく過ごすことが一番だと思いますので、安心して下さいね。

最後に僕からメッセージです。僕が心の病、ひきこもりから元気になってこれたのは、言葉・言霊の力が大きいです。ですから、おすすめの言葉をご紹介しますね。「自分はこのままで価値がある」「自分はすごいんだ」「ついてる。感謝しています」。この3つの言葉を口に出して言うことをおすすめします。



自己重要感・自己肯定感が満たされて、自分のことを大切に思えるようになりますよ。そう思えるようになると、自然と行動もできるようになっていきます。効果は絶大ですので、ぜひお試しください。最後まで読んでいただきまして、ありがとうございました。（イラストは樹陽メンバーの作品です）

ひきこもり体験者のつどい「樹陽のたより」

- 事務局／野村 俊幸 ■会員数／10名前後（固定した会員制ではなく例会に参加した方が会員）
- 電話／090-6261-6984 ■FAX／0138-57-3041
- メール tnomura@sea.ncv.ne.jp ■ブログ <http://asagao.phpapps.jp/>

施設利用料金

税込(円)

階	会場名	面積	参考レイアウト		基本料金	
		m ²	形	席数	単価	金額
2階	多目的ホール	272	シアター	約100	1日あたり	10,000円
			スクール	約60		
	研修室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	500円
			スクール	約30		
研修室C	24	シアター	約30	1時間あたり	500円	
		スクール	約20			
3階	会議室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約30		
	会議室C	24	シアター	約30	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約20		

※会場には、テーブル、イス、ホワイトボード、空調設備を備えています。※駐車場/2時間無料、超過30分までごとに100円
 ※営利目的(入場料を徴収したり、物品を販売するなど)で使用する場合は、割増料金となります。

備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材(研修室・会議室用)	1,000円
音響機材(多目的ホール)	2,000円
プロジェクター	1,000円
スクリーン	500円

※その他、設備等については、ご相談ください。

活動支援費 要相談 **1,000円**

印刷機使用料金 ※用紙代別

- ① 製版代/1枚……………100円
- ② 印刷枚数/10枚まで……………10円
(以後10枚毎に10円加算となります。)

※例) 12枚/20円、137枚/140円、1543枚/1,550円です。
 ※①製版代+②印刷枚数が必要です。
 ※印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

コピー料金

- ① 白黒/A4・B4・A3……………1枚 10円
- ② カラー/A4・B4……………1枚 50円
- ③ カラー/A3……………1枚 100円

横断幕プリント/ ポスタープリント料金 ※用紙代含む

- ① 610mm×1.5m……………1枚 2,400円
- ② 610mm×3.0m……………1枚 2,600円
- ③ 610mm×4.0m……………1枚 2,900円
- ④ 610mm×5.0m……………1枚 3,200円
- ⑤ A2版(420mm×594mm) 1枚 1,200円
- ⑥ A1版(594mm×841mm) 1枚 1,400円

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■【各施設の使用申し込みについて】

- 利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。
<https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/>

【お問い合わせ】



函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19

TEL.0138-22-9700 開館時間 AM9:00～PM9:00

FAX.0138-22-9800 休館日 年末年始(12/31～1/3) ※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ <http://hakomachi.com/> 函館 まちセン

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ